

現代の湿式工法の漆喰塗り施工法を解説する。

外壁

●外部漆喰仕上げ

漆喰による、外壁を再施工する工程は、

木下地の上に

防水紙（フェルト）

ラス網（波ラス）

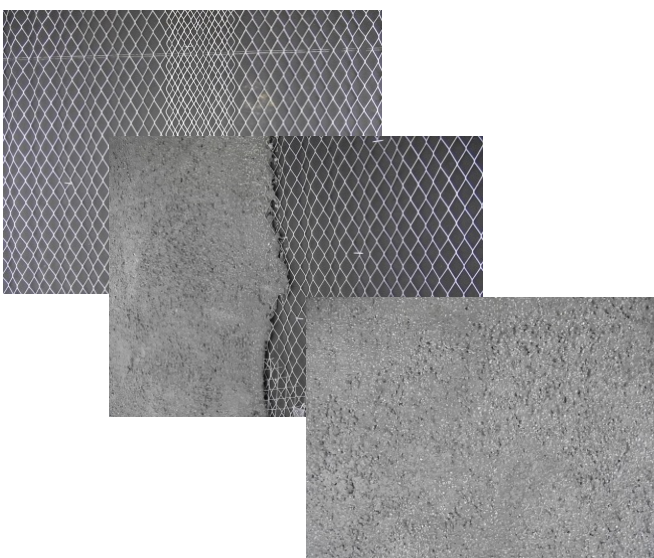
軽量モルタル（20mm厚）

軽量モルタルは二回目になるが二回目で3軸ネットなど

引っ張りに抵抗する素材が埋め込まれているとクラックに

強くなる。

仕上げ 漆喰塗 2mm～3mm厚



●内部漆喰仕上げ

漆喰塗りの工程は次の通りとなる。

下地 石膏ラスボード 9mm

石膏プaster塗り 6mm

漆喰仕上げ 2mm～3mm 厚

材料：製品化された漆喰材を使用する。

①漆喰は粉末の消石灰の場合と、すでに水を加えて液状になっている製品もある。施工性と粘度の調整のため、商品化された粉末つものたを加える。

②石膏ラスボードは水分を吸収しやすいため、左官作業で石膏プasterが塗られた際に水分を含んだ状態になり、変形してくぼんでしまうことがある。それを防止するために壁下地材はしっかりと入れておく。

③下地に土壁や漆喰があり、上塗り補修する場合には、付着しない可能性があるため、接着増強剤を塗布してから施工する。

《漆喰の薄塗》

壁の仕上げは漆喰塗にすることが最適であると考えが、漆喰には数々の製品化されたバリエーションがある。ペースト状になっているものはローラーや刷毛で塗ることができ使用しやすい。天井などには向いている仕上げである。塗装するのと同じ要領なのでコストも抑えることが可能になる。下地は、石膏ボードにパテ処理及びシーラーを塗ってから施工する。

ここでの漆喰左官工事は、土壁の下地づくりからの工法ではないので、土の特質は発揮されない。但し、漆喰等土もの系の自然素材の持つ美しい表面、光の反射率、耐候性等優れた効果を発揮する。

壁



天井

